

令和 4 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立三永小学校
学校長名 林 万 青 也

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

自ら学び続ける児童を育成する国語科授業の創造
～3つの段階をおさえた自己調整学習を通して～

(2) 主題設定の理由

今の子供が社会人となる時代は，多様な価値観をもつ人で構成されるダイバーシティかつインクルージョンな社会になると予想される。それゆえ自分や他者の考えや思いを大切にしながら，未来を力強く生き抜くための資質・能力，いわゆるコンピテンシーを備えていかなければならないだろう。

本校では昨年度，研究主題を「協働し，自ら学び続ける児童の育成」とし，育てたい重点的な資質・能力である「自己調整力」と通じる「レジリエンス」，「協働性」に対応する「関わり合う力」を高めることに焦点をあて，国語科や生活科，総合的な学習の時間等を中心に研究を行った。具体的な取組として，「納得解」を求める学習課題や相手・目的意識をもって試行錯誤を繰り返す単元構成の設定，課題解決の過程で多様な他者との協働を引き出す指導，自らの学習内容・方法を適切に振り返る活動の設定を工夫することとした。これらの手立てにより，困難な状況でも，他者と協働しながら課題解決を図る児童の姿が見られ，「自己調整力」や「協働性」の向上において一定の成果を出すことができた。

しかし，国語科「読むこと」に関する学力調査の結果では，新学習指導要領に定められている指導事項の習得に課題があることが分かった。また，自分の思いや考えを伝え合うことに苦手意識をもつため，他者との関わりを通して自らの学習内容・方法を調整することが難しい児童も未だ少なくない。これらの課題を乗り越えるためには，コンピテンシーの育成に重きを置きつつも，他者との関わりを支える「言葉」の力を高める授業づくりを見つめ直すことが必要だと考えた。

そこで，今年度は，言葉そのものに直接的に働きかける教科である国語科を研究科目とし，「読むこと」の指導事項の習得と合わせて「自己調

整力」「協働性」を中心としたコンピテンシーの育成を目指すこととした。そのための手立てとして考えたのが、自己調整学習の考え方に基づく国語科授業を中心とした指導の工夫である。自己調整学習とは、「学習者が、動機づけ、行動、メタ認知において、自分自身の学習過程に能動的に関与する学習」のことであり、学習を①予見、②遂行、③自己省察の3段階で捉え、学習者自らが各段階で適切に取り組むことを重視するものである。これは、「自己調整力」「協働性」と関連が深いと考えた。

以上より、本校で重点的に育てたい資質・能力を有した自ら学び続ける児童を育成するためには、自己調整学習の理論を軸とした、国語科文学的文章における授業づくりが大切だと考え、本主題を設定した。

(3) 研究仮説

国語科文学的文章において、自己調整学習の理論に基づいた学習指導を展開する中で、「予見」「遂行」「自己省察」の各段階に応じた指導の工夫を行うならば、自ら学び続ける児童を育成する国語科授業を創造することができるであろう。

(4) 研究内容

国語科文学的文章を扱った自己調整学習の各段階において、自ら学び続ける児童を育成する国語科の授業づくりを検討する。

- ① 「予見」段階における課題設定の工夫
- ② 「遂行」段階における「読むこと」の力を高める指導の工夫
- ③ 「自己省察」段階における、学習内容（「読むこと」の力）や学習方法を適切に振り返らせるための指導の工夫

(5) 検証の方法及び指標

研究内容①～③において、以下の3つの方法により、研究の検証を行う。

A) 教師の学習指導力評価表の分析

研究授業における教師の相互評価を通して、目指す児童を育成する学習指導を実現することができていたかを評価し、肯定的評価3.2以上（4段階評価）を目指す。

B) 児童の意識調査の分析

6月と12月の意識調査を比較し、肯定的評価を向上させる。
（肯定的評価80%以上）

C) 児童の学力テストの分析

6月と12月に国語科のチャレンジテストを実施し、期待正答率と比較した実際の平均正答率との差を向上させる。

2 検証計画

(1) 教師の学習指導力評価の実施と分析（研究授業後）
(2) 児童の意識調査の実施と分析（6月，12月）
(3) 国語科におけるチャレンジテストの実施と分析（6月，12月）

3 校内研修計画

4月	・研修組織決定 ・校内研修年間計画作成 ・研究の方向性や帯タイム，家庭学習について
5月	・理論研修 ・授業実践（高）
6月	・意識調査，チャレンジテストの実施・分析 ・教材分析，指導案作成，指導案検討 ・授業実践（低・中）
7月	・指導案の修正
8月	・指導案の修正 ・公開研究会の準備
9月	・公開研究会の実施 ・公開研究会を通じた成果と課題の分析
10月	・教材分析，指導案作成，指導案検討 ・特別支援教育研修
11月	・教材分析，指導案作成，指導案検討 ・授業実践（低・高）
12月	・授業実践（中） ・意識調査，チャレンジテストの実施・分析 ・研究の成果と課題の分析
1月	・研究紀要の作成
2・3月	・研究の課題整理 ・次年度の研究の方向性確認

4 研究公開の予定について

公開予定日	令和4年9月16日（金）
公開範囲	東広島市
公開内容等	東広島市立三永小学校教育研究会